

## (1) 講話【その人は、私の心の鬼、を写し出す鏡でした】

本日は節分の日です。全国各地で、鬼は外、福は内、の掛け声が飛び交う日であります。

これまでも何度と触れてきた内容ではありますが、この「鬼は外、の者」という認識をお持ちの方も多いのだと思います。けれども、日常生活の中では、私たちの内側、いわゆる「心の中」に鬼が存在していないのでしょうか？怒って「頭に来た！」、といて角が生える。「腹が立つ！」、と言って腹の虫（鬼）が治まらなくなる〔平安時代の書物には、『腹の中の鬼』と記されていました。後に医師たちにより、『腹の虫』と置き換えしていったとの事〕。私たちの心の中にはこのように、間違いなく鬼が棲んでいる様子ですよ。ですから、その鬼が体内から出ていくようにと、古き時代から豆まきをしては、退治してきたのでしょう。

しかし、本当に必要なのは退治することではなく、我が心の鬼と向き合っていく、「対話」していく事なのではないかと思うわけです。しかし、この我が心の鬼を認めるのが中々苦しい。自分自身と対話していくことは決して簡単なことではありません。

東本願寺の中高生奉仕団という事業がありまして、数年前、そこで中高生と共有した趣旨文があります。

『私は正しい……』【真宗本廟中高生奉仕団 2022 夏 趣旨文】

『僕のお父さんは、ももたろうというやつに殺されました。』

残された小鬼はこう言った。

本当に桃太郎がしたことは正しかったんだろうか。

鬼にも家族や友達がいただろうに…

じゃあ、桃太郎は悪いことをしたんだろうか。

いや、ちがう！

桃太郎は悪い鬼を退治したんだ！

でも、小鬼は…

正しいって何だろう？

悪いって何だろう？

どうやって決めるんだろう？

私は正しい！

私は正しい…

私は正しい？



正義の名の下に退治された鬼たち。私たちの頭は、桃太郎の行動を何の疑いもなく、当然の如く正しい行いとしてみてきました。しかし、見る位置や考えるポイントを変える事で、見えてくる情景が大きく変わるものです。世界各地で起こっている戦争や内紛もまた同じ事が言えるのだと思います。

改めて、自分自身の心の鬼もまた、相手のせいで引き出されたのではなく、相手のおかげで自分の中に棲んでいた鬼を見せられているのではないのでしょうか。他人や現象は、私の実相を映し出す鏡だと言えるかも知れません。自らを振り返る、今日の出会いを鏡として自分と謙虚に向き合い、スタート致しましょう。

## (2) 連絡事項について

〔講話+④=理事長、①②=生活課長、③=事務課長〕

- ① ノロウイルスやインフルエンザ B 型が流行しています。今日の午前中、職員の家族がノロウイルスに罹患した場合の職員の勤務についてなど、感染対策委員会にて検討致します。
- ② 明日は、衆議院議員選挙の不在者投票を午後から苑内にて実施致します。
- ③ 朝晩は雪道の凍結がある中で、今週、天気が緩む事で屋根に積もった雪も落ちてくる危険度が高まります。落ちてくる事を予見するのは困難だと思っておりますが、下だけではなく、上の方も気をつけて観ながらご移動をお願い致します。
- ④ 行事等についてですが、本日午後、豆まきがあります。7日は雪あかり鑑賞ツアー、8日は雪中神輿が午後光寿苑苑庭にやってきます。また、ぶなの園と光寿苑との職員交流勉強会が今月末に予定されています。栄養士と調理の職員間での内容となっています。